

H23 年度科学・技術関係予算概算要求 個別施策ヒアリング

【施策番号 28001：高度な国土管理のための複数の衛星測位システム（マルチ GNSS）による高精度測位技術の開発（国土交通省）】

- 1 日時：平成 22 年 9 月 13 日（月） 16:30～17:00
- 2 場所：中央合同庁舎 4 号館 2 階 第 3 特別会議室
- 3 聴取者：白石議員、奥村議員、青木議員
外部専門家 6 名（うち若手 2 名）
内閣府 大石審議官、廣木参事官
- 4 説明者：国土交通省 大臣官房技術調査課 溝口環境安全・地理空間情報技術調整官
国土地理院企画部 下山研究企画官
国土地理院測地観測センター衛星測地課 辻課長 他

5 施策概要

これまで GPS 測量が困難であったビル街等を含め、国土管理に必要な高精度測位を効率的に実施するため、GPS（米国）、準天頂衛星（日本）、GLONASS（ロシア）、Galileo（EU）といった各国の衛星測位システム（マルチ GNSS：Global Navigation Satellite System）を統合的に利用して、短時間に高精度の位置情報を取得し、測量等に適用するための技術開発及び標準化を行う。

6 質疑応答模様

【白石議員】

海外と比較してどのような強みがあるか？

【国土交通省】

本施策を提案したのは準天頂衛星が打上げられるため。その利活用を適切に進めるためには自前で解析ソフトを開発することが必要。強みとしては、準天頂衛星について JAXA と協力するため、海外の衛星と比べ技術的な詳細が把握できる。オールジャパンの体制でソフトウェアの開発・標準化を行う。

【外部専門家】

各衛星を統合的に全部使用する、というのは実現できるのか？

【国土交通省】

統合解析にはクリアすべき課題が多くチャレンジングであるが、沢山の衛星を同時に測量で使用できるようにするためには必要不可欠。大学等を含め体制を整えて取り組んでいきたい。

【外部専門家】

日本のリーダーシップをいかに出すか？また、標準化とは何を行うのか？

【国土交通省】

準天頂衛星はアジア・オセアニア地域がサービスエリアとなるため、この地域で JAXA と連携して利活用を進め、リーダーシップを取っていきたい。また、標準化とは、公共測量の作業規程準則へ、衛星の組み合わせ方等の作業手順を記載することである。

【外部専門家】

民間でなく政府が行う意義は？

【国土交通省】

やや難度の高いマルチ GNSS の統合解析に力点を置きアルゴリズム開発を行う。開発されるソフトウェアは標準化を行うためのもので、必要最小限のインターフェースしか備えておらず、民間ソフトウェアの販売の妨げになるものではない。マルチ GNSS 解析の標準化が政府として実施する理由である。

【外部専門家】

民間でも利用の端末やソフトウェア開発を行う。その中で国は何を実施するのか？

【国土交通省】

民間では GPS とグロナスを併用するソフトウェアは存在するが、様々な GNSS を統合使用するソフトウェアはないため、そこがデマケになると考えている。

以上